

株の学校 アクションラーニング



銘柄診断レポート

(第4期カリキュラム対応)

～2011年3月号～

エーアイティー
(9381)

You Tube で解説します！

本レポートは著作権上の保護を受けています。
本レポートの一部あるいは全部について、
ActionLearningから文書による許諾を得ずに、
いかなる方法においても無断で複写、複製することは禁じられています。

なお、本レポートにおける1株価値計算は、
株式投資に対する理解を深めるためにアクションラーニングが計算を行ったものであり、
特定の銘柄について、特定の投資行動を薦めるものではありませんので、ご注意ください。

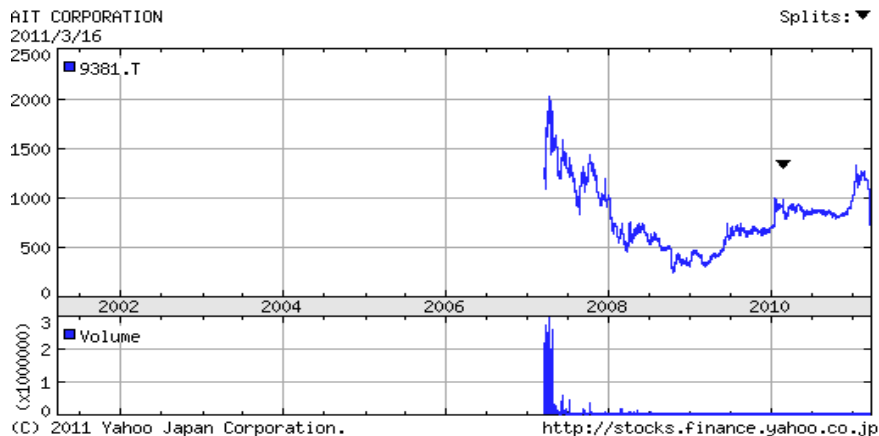
今月のピックアップ銘柄

エーアイティー(9381)

	H18.2期	H19.2期	H20.2期	H21.2期	H22.2期
売上高(mil)	5,339	7,268	8,974	10,007	10,113
経常利益(mil)	259	445	578	603	820
自己資本比率	61.9%	47.6%	62.6%	67.3%	64.8%

時価総額(mil) 5,847

過去10年のチャート



エムスリー(2413)

	H18.3期	H19.3期	H20.3期	H21.3期	H22.3期
売上高(mil)	3,855	5,729	7,475	8,535	11,811
経常利益(mil)	1,694	2,779	3,734	4,171	4,858
自己資本比率	72.0%	75.6%	76.9%	80.0%	73.2%

時価総額(mil) 113,330

過去10年のチャート



プレステージインターナショナル(4290)

	H18.3期	H19.3期	H20.3期	H21.3期	H22.3期
売上高(mil)	10,040	12,829	13,438	14,729	16,174
経常利益(mil)	1,206	1,634	1,817	2,311	2,390
自己資本比率	54.5%	53.4%	63.3%	61.3%	62.2%

時価総額(mil)

過去10年のチャート

Prestige International Inc.
2011/3/16

Splits: ▼



着眼点

5期連続で売上高が増加、5期連続で経常利益が増加、自己資本比率 $\geq 60\%$ であること。さらに連結決算をしており、売上高200億円未満の企業を注目しました。

基本的な狙いとして、継続的に増収増益を実現していて、しかも財務が健全(無理な借入投資により規模を拡大させていない)、しかも小規模な成長余地のある会社を探したいと考えました。

条件1. 5期連続で売上高が増加、5期連続で経常利益が増加。

→着実に成長している企業を抽出するための条件

条件2. 自己資本比率 $\geq 60\%$

→無理なレバレッジにより拡大しているわけではない企業。言い換えれば、ビジネスモデルが優れているがゆえに、過大な借入がなくても5期連続増収増益できる企業を抽出するための条件。

条件3. 売上高200億円未満

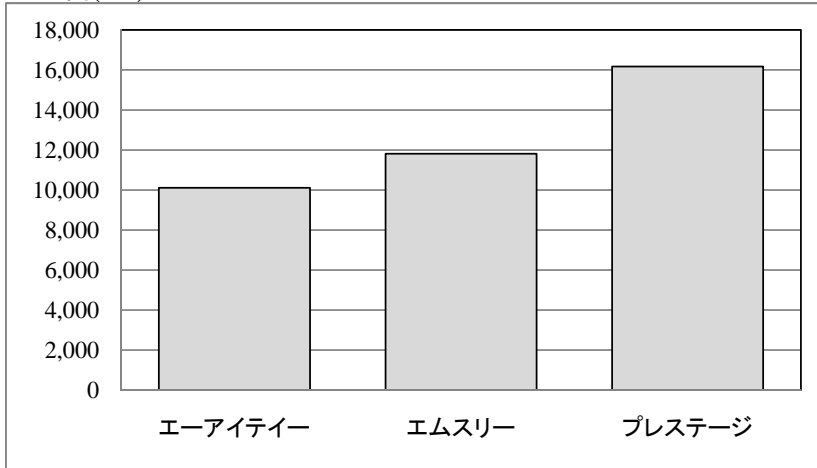
→それほど企業規模が大きくなり、成長余地が期待できそうな企業を抽出するための条件。

ピックアップ方法

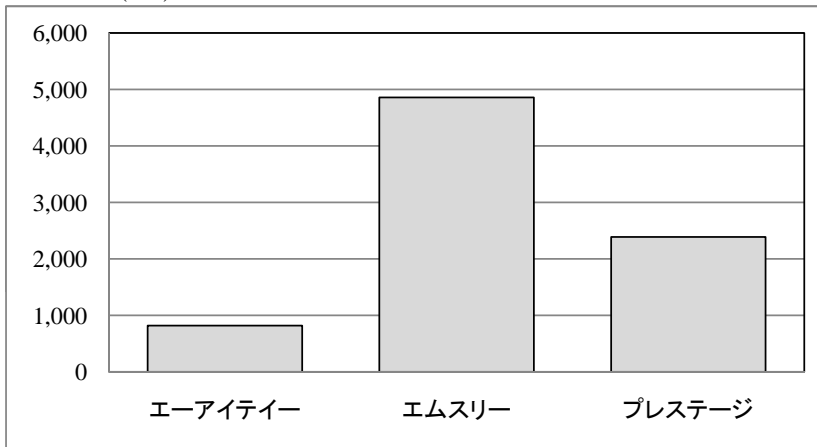
四季報CD-ROMを使用し、上記条件で抽出。

銘柄診断する1社の絞り込み

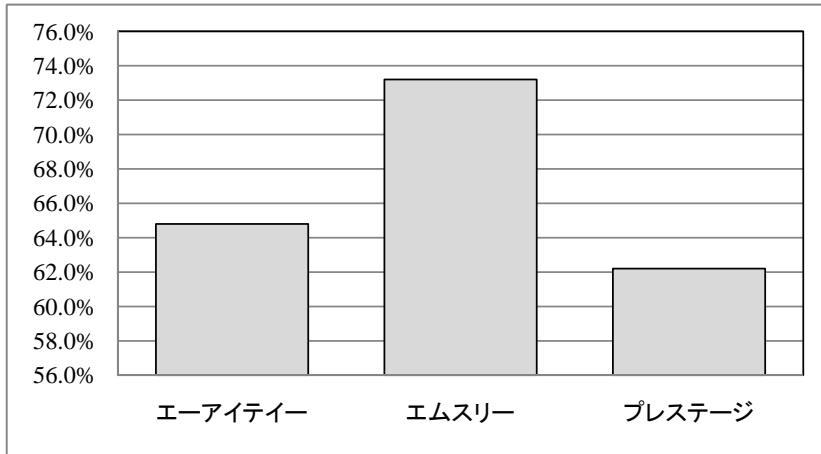
売上高(mil)



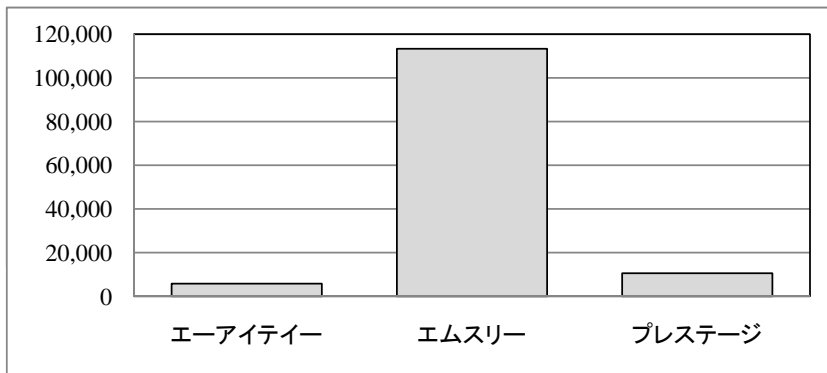
経常利益(mil)



自己資本比率



時価総額(mil)



エーアイティーを採用した理由

いずれも魅力的な企業である。
迷うところであるが、業績堅調の割に株価が低迷しているエーアイティーを選ぶこととする。(あとで見るが十分に割安な株価水準である)

レポートの要約

Step1	良い株か？	判定	No→	投資しない
	CP1 自己資本比率 $\geq 60\%$	○		
	CP2 経常利益 > 0	○		
	CP3 回転期間 ≤ 4 ヶ月	○		
	↓ Yes			
	景気安定株か？	○	No→	(循環株)
	↓ Yes			
Step2	割安か？	○	No→	監視する
	↓ Yes			
Step3	タイミングはよいか？	×	No→	
	↓ Yes			
	ベスト銘柄！ 投資する。			

結論

地震の影響もあり、株価のトレンドが上昇基調から下落基調に転換しつつあるように見受けられる。13週移動平均線のトレンドが上昇から横ばい、下落へと転換しつつある状態なので、株価のトレンドを見極めたいところ。
良い株で、割安という点は安心。

基本情報

社名	エーアイティー	証券コード	9381
業種	倉庫・運輸(24)	決算期	2月末
業界	倉庫・運輸(2401)	連単	連結
市場	東証2部	作成基準日	2010年2月28日現在
本店所在地	〒541-0044 大阪市中央区伏見町4-4-1		
対象財務諸表	平成22年2月期 決算短信		
発行済株式数 (*1)	4,745,589 株(平成22年5月末)		

事業内容	貨物利用運送事業(外航海運、国際航空貨物)、航空運送代理店行など
------	----------------------------------

主要同業他社	丸運(9067)、近鉄エクスプレス(9375)、名鉄運輸(9077)など
--------	--------------------------------------

株価 1,192 円(H23.2.28現在)

【総括】

国際貨物輸送事業を行っている。いわゆる「フォワーダー」であり、海上・航空・陸上貨物の利用運送、海上・航空・陸上輸送の取次、混載輸送、輸出入通関、貨物の保管・梱包、船積書類等の作成、貨物海上保険の手配等を行う。
 なお、自らは輸送手段(船舶・航空機・自動車等)を所有・運行せず、船会社等の実運送業者のサービスを利用して貨物輸送を行う。
 取扱い貨物の大部分は日中間の海上輸送貨物。平成22年2月28日現在、中国において、上海・香港・大連・天津・青島・南通・蘇州・寧波・深セン・広州に拠点を設置している。日中間の海上輸送貨物の多寡が業績に影響を与える。
 設備投資の不要な手数料ビジネスであり、このことが財務諸表にも跳ね返っている。また、在庫を持たなくて良いため、在庫リスクも存在しない。

Memo

*1 2010年3月1日に、1:200の株式分割を実施。考慮後の数値。

貸借対照表 (B/S) (単位 ; 百万円)

勘定科目	H21.2期	H22.2期	増減
現金預金	1,255	1,607	352
売上債権	424	632	208
有価証券	100	300	200
棚卸資産	-	-	-
繰延税金資産	23	36	13
その他	77	71	△6
流動資産	1,879	2,646	767
有形固定資産	26	21	△5
のれん	-	-	-
その他無形資産	46	40	△6
投資有価証券	199	-	△199
長期性預金	-	-	-
繰延税金資産	19	31	12
その他投資等	128	116	△12
固定資産合計	418	208	△210
繰延資産合計	-	-	-
資産合計	2,297	2,854	557

勘定科目	H21.2期	H22.2期	増減
仕入債務	246	385	139
短期有利子負債	100	20	△80
その他の流動負債	352	530	178
流動負債合計	698	935	237
長期有利子負債	-	-	-
繰延税金負債	-	-	-
その他の固定負債	45	63	18
固定負債合計	45	63	18
負債合計	743	998	255
株主資本	1,587	1,883	296
評価・換算差額等	△40	△34	6
新株予約権	-	-	-
少数株主持分	7	8	1
純資産	1,554	1,857	303
負債純資産合計	2,297	2,854	557

主要な経営指標	H21.2期	H22.2期
自己資本比率	67.3%	64.8%
売上債権回転期間	0.5ヵ月	0.7ヵ月
棚卸資産回転期間	0.0ヵ月	0.0ヵ月

貸借対照表

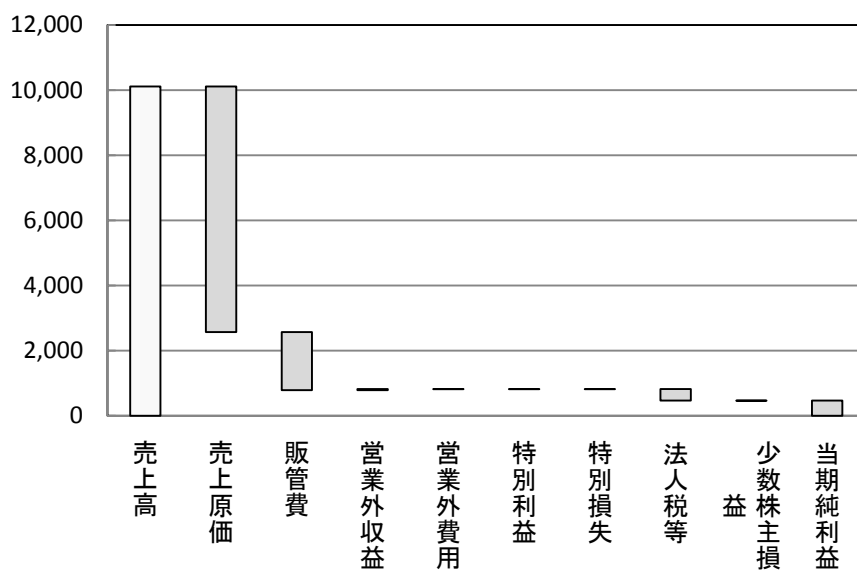
流動 資産	負債 合計
	純資 産
固定 資産	

損益計算書 (P/L) (単位 ; 百万円)

勘定科目	H21.2期	H22.2期	増減
売上高	10,007	10,113	106
売上原価	7,843	7,542	△301
売上総利益	2,164	2,571	407
販管費	1,591	1,787	196
営業利益	573	784	211
受取利息・配当	8	7	△1
その他営業外収	26	30	4
営業外収益 合計	34	37	3
支払利息割引料	2	1	△1
その他営業外費	2	-	△2
営業外費用 合計	4	1	△3
経常利益	603	820	217
特別利益	4	-	△4
特別損失	1	1	-
税引前利益	606	819	213
法人税等	244	351	107
少数株主損益	3	1	△2
当期純利益	359	467	108

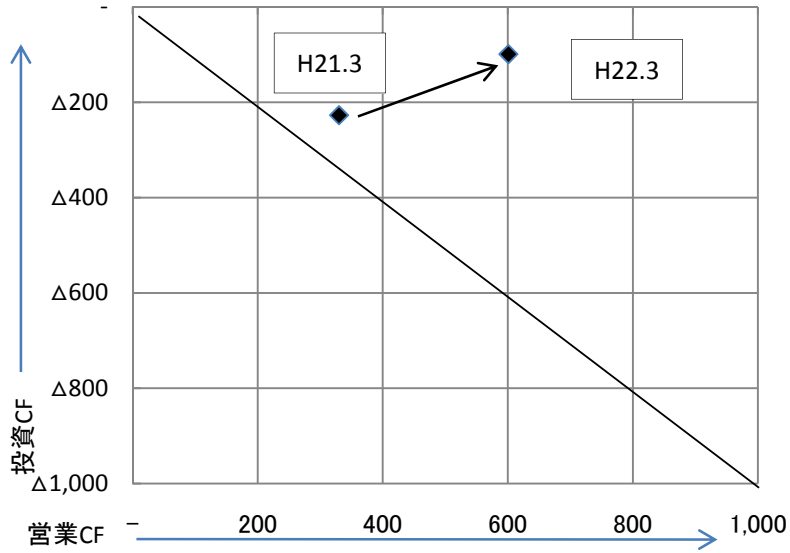
売上総利益率	21.6%	25.4%	3.8%
営業利益率	5.7%	7.8%	2.0%
経常利益率	6.0%	8.1%	2.1%

(単位 ; 百万円)

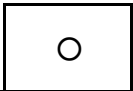


キャッシュ・フロー計算書 (C/S) (単位; 百万円)

勘定科目	H21.2期	H22.2期	増減
営業CF ①	330	601	271
投資CF	△227	△99	128
設備投資CF ②	△37	△24	13
その他の投資CF	△190	△75	115
財務CF	△158	△252	△94
FCF ①+②	293	577	284



Check Point1 自己資本比率 ≥ 60%



1.時系列比較

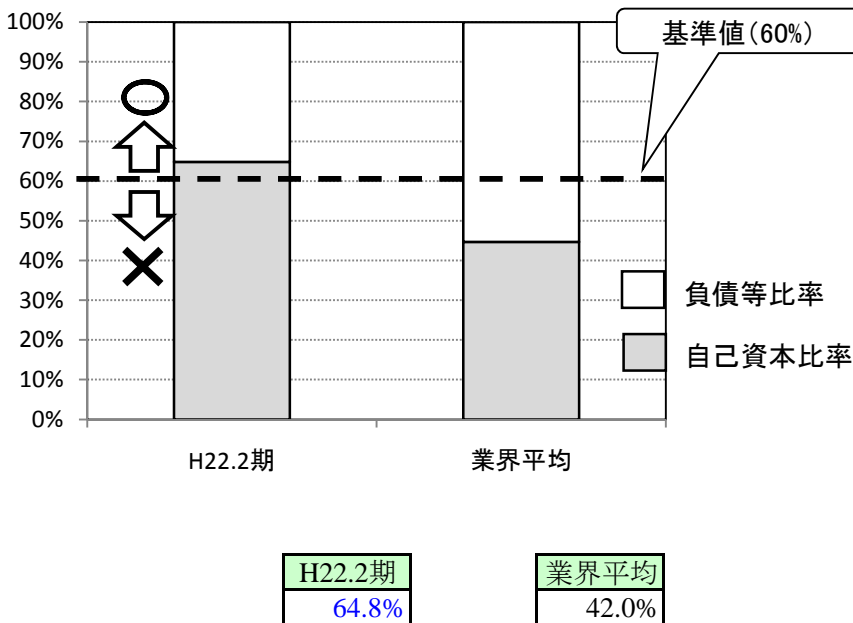
経営指標	H18.2期	H19.2期	H20.2期	H21.2期	H22.2期
自己資本比率	61.9%	47.6%	62.6%	67.3%	64.8%

Point!

有価証券報告書の最初の方「連結経営指標等」に5年分まとめて記載されています。

2.同業他社比較(参考)

対象企業の自己資本比率と業界平均の自己資本比率(%)

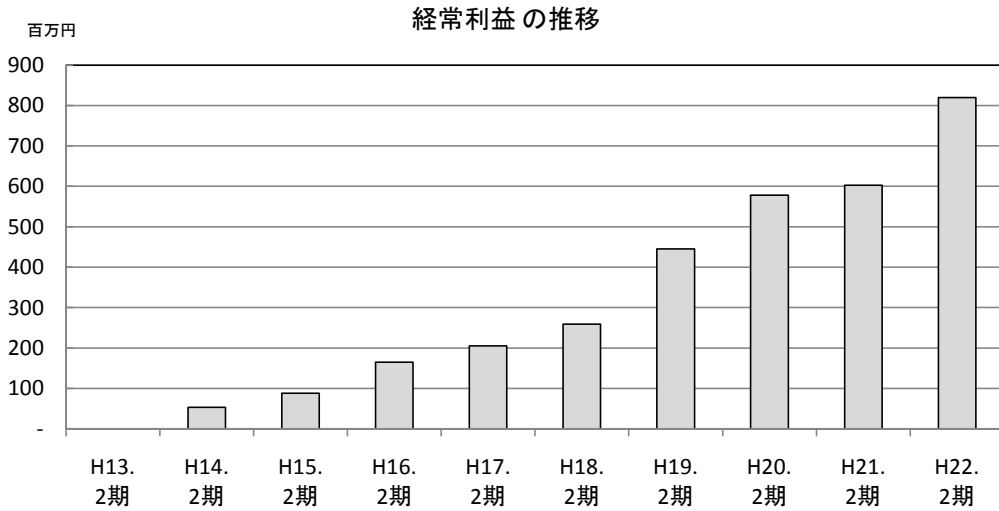


Memo

チェックのポイント

自己資本比率が高い＝財務が健全で、倒産リスクが低い

Check Point2 経常利益 > 0



主要な 経営指標	H13. 2期	H14. 2期	H15. 2期	H16. 2期	H17. 2期	H18. 2期	H19. 2期	H20. 2期	H21. 2期	H22. 2期
経常利益	-	53	88	165	205	259	445	578	603	820

百万円

Point!

有価証券報告書の最初の方「連結経営指標等」に5年分まとめて記載されています。
 なので、直近の有価証券報告書と、5年前の有価証券報告書があれば、過去10年分の経常利益がわかります。

Memo

チェックのポイント

経常利益が黒字＝倒産リスクが低く、資産バリューが蓄積しやすい

Check Point3-1 売上債権回転期間 ≤ 4ヶ月



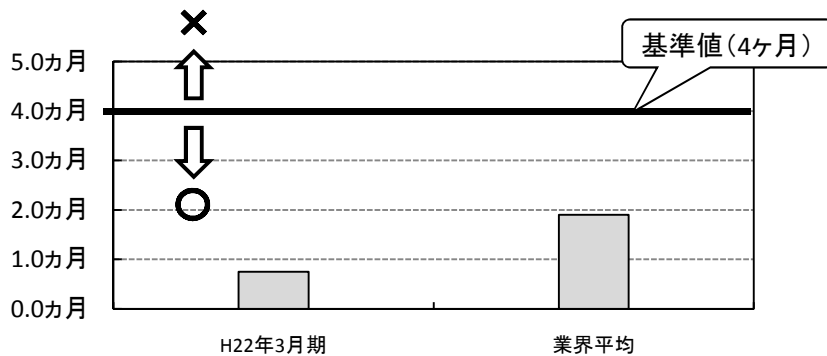
1.時系列比較

主要な経営指標	H18.2期	H19.2期	H20.2期	H21.2期	H22.2期
売上債権回転期間	0.5ヵ月	0.7ヵ月	0.5ヵ月	0.5ヵ月	0.7ヵ月

$$= \text{売上債権} \div \text{売上高(1ヶ月当たり)}$$

2.同業他社比較(参考)

売上債権回転期間(ヶ月)



H22.3期
0.7ヵ月

業界平均
1.9ヵ月

Memo

チェックのポイント

売上債権回転期間が短い＝貸倒リスクが低く、資産バリューが減りにくい

Check Point3-2 棚卸資産回転期間 ≤ 4ヶ月

○

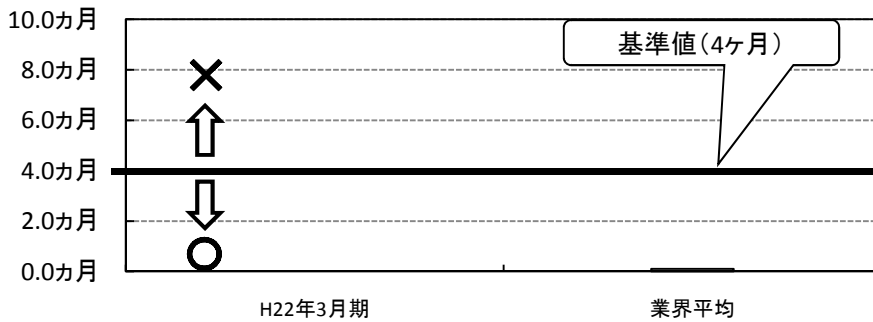
1.時系列比較

主要な経営指標	H18.3期	H19.3期	H20.3期	H21.3期	H22.3期
棚卸資産回転期間	0.0ヵ月	0.0ヵ月	0.0ヵ月	0.0ヵ月	0.0ヵ月

= 棚卸資産 ÷ 売上原価(1ヶ月当たり)

2.同業他社比較(参考)

棚卸資産回転期間(ヶ月)



H22.3期
0.0ヵ月

業界平均
0.1ヵ月

Memo

チェックのポイント

棚卸資産回転期間が短い=評価損リスクが低く、資産バリューが減りにくい

Step1 景気循環業界ではないか？



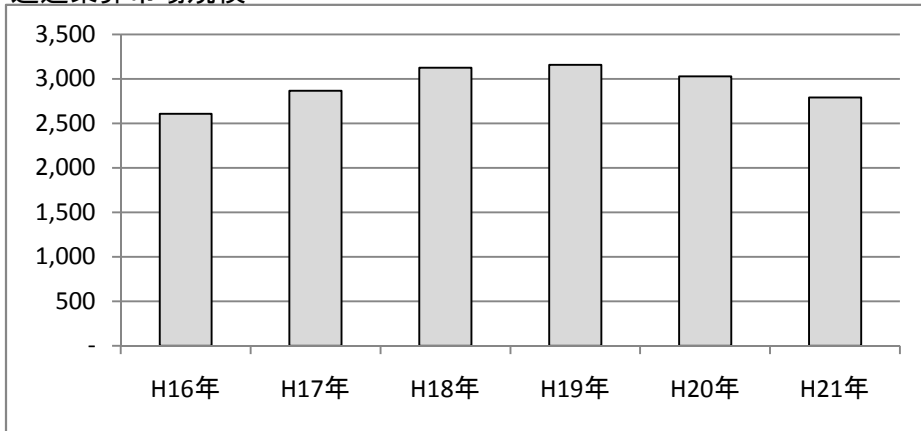
コメント

運賃等の価格は、景気変動の影響を受けやすいが、日中間の物流量に関して言えば、安定して推移している。

エーアイティイーは、物流量に応じた手数料ビジネスであるため、手数料率も景気の良し悪しにかかわらず一定程度の水準を維持されるものと推測される。

以上の事から、景気循環業界ではないと判断する。

運送業界市場規模



日中間コンテナ本数推移(AITホームページより)(単位:千本)

H16年	H17年	H18年	H19年	H20年	H21年
2,605	2,867	3,125	3,156	3,027	2,790

Memo

チェックのポイント

景気循環型企业には、バリュー投資をそのまま当てはめられない。

Step2 割安か？(1株価値>1株予算≧株価)

○

1株純利益の選択

直近の1株純利益	98円	★	株式分割考慮後
予想1株純利益	103.92円		

直近の1株純利益と予想1株純利益の小さい方を用いる(保守的に計算)

1株価値の計算

1株純資産 389.58円	×	係数 0.3	=	1株資産バリュー 116円
1株純利益 98.35円	×	係数 20.0	=	1株収益バリュー 1,967円
1株資産バリュー 116円	+	1株収益バリュー 1,967円	=	1株価値 2,083円

資産バリューと収益バリューの割合

	金額	割合
1株資産バリュー	116円	6%
1株収益バリュー	1,967円	94%
1株価値	2,083円	100%

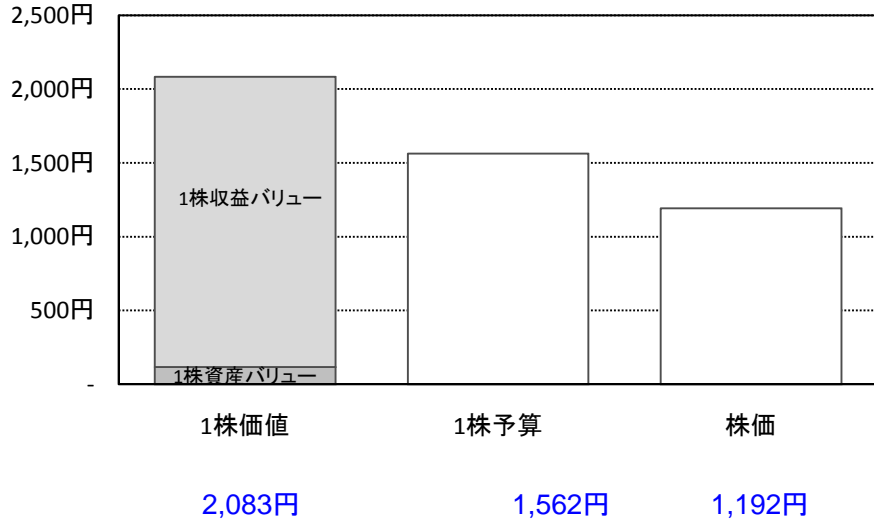
※1株価値のボラティリティについて

1株価値に占める1株収益バリューの割合が67%であり、1株価値は増減しやすい。

1株予算の決定

1株価値 2,083円	×	購入係数 75%	=	1株予算 1,562円
----------------	---	-------------	---	----------------

1株価値と株価の比較



結論

1株予算 > 株価 であるため、割安である。

- ・1株価値＝その企業の1株当たりの価値
- ・1株予算＝株価がその金額を下回ったら購入しても良いという購入金額の目安

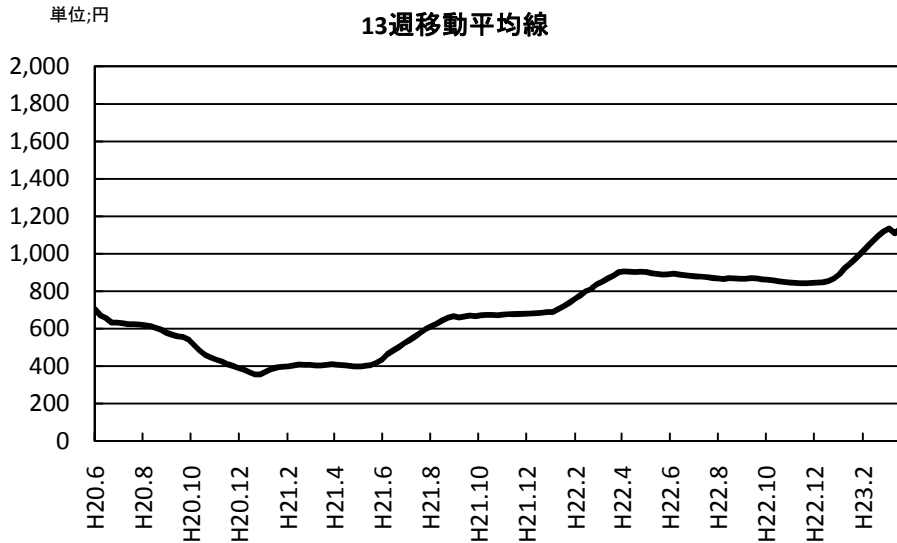
Memo

チェックのポイント

良い株でも安く買わないと利益は得られない (cf.総論)

Step3 買うタイミングは良いか? ~13週移動平均線~

×



13週移動平均線は、上昇基調ではない。

Memo

チェックのポイント

良い株で割安でも、さらに株価が下がることはあるので、
上昇トレンドにあることを確認

(cf.総論)

2010年

No.24	イーピーエス (4282)	2010年1月号	○
No.25	オリエントコーポレーション (8585)	2010年2月号	○
No.26	三井海洋開発 (6269)	2010年3月号	○
No.27	サイゼリヤ(7581)	2010年4月号	○
No.28	くらコーポレーション(2695)	2010年5月号	○
No.29	ニコン(7731)	2010年6月号	○
No.30	日立製作所(6501)	2010年7月号	○
No.31	電通(4324)	2010年8月号	○
No.32	ユビキタス(3858)	2010年9月号	○
No.33	沢井製薬(4555)	2010年10月号	○
No.34	日本開閉器工業(6943)	2010年11月号	
No.35	マニー (7730)	2010年12月号	○
No.36	モスフードサービス (8153)	2011年1月号	○
No.37	資生堂 (4911)	2011年2月号	○

2008年

No.1	セブン&アイ・ホールディングス (3382)	2008年2月号
No.2	平和堂 (8276)	2008年3月号
No.3	キャノン (7751)	2008年4月号
No.4	大林組 (1802)	2008年5月号
No.5	鳥羽洋行 (7472)	2008年6月号
No.6	ファナック (6954)	2008年7月号
No.7	ローランド (7944)	2008年8月号
No.8	ソフトバンク (9984)	2008年9月号
No.9	平安レイサービス (2344)	2008年10月号
No.10	プレナス (9945)	2008年11月号
No.11	ザ・パック (3950)	2008年12月号

2009年

No.12	TKC (9746)	2009年1月号
No.13	ファーストリテイリング (9983)	2009年2月号
No.14	エイベックス・グループ・HD (7860)	2009年3月号
No.15	住友林業 (1911)	2009年4月号
No.16	共立メンテナンス (9616)	2009年5月号
No.17	スターバックスコーヒージャパン (2712)	2009年6月号
No.18	テルモ (4543)	2009年7月号
No.19	商船三井 (9104)	2009年8月号
No.20	乾汽船 (9113)	2009年9月号
No.21	武田薬品工業 (4502)	2009年10月号
No.22	セブン銀行 (8410)	2009年11月号
No.23	住友商事 (8053)	2009年12月号

各1,000円 (税込)

株の学校 アクションラーニング



定価 1,000円（税込）